

は 0.65 %で、日間給餌率は 1.59 %であった。歩留りは 96.9 %で増肉係数は 2.45 であった。

VI 残された問題点

1. ミナミクロダイ、マダイ親魚の夏期高水温時期の魚病対策。
2. ミナミクロダイ、日令 25 前後における寄生性原虫対策。
3. マダラハタ初期飼育における初期飼料の検討と魚病対策。
4. コガネシマアジ日令 17~20 における大量減耗防止。
5. 中間育成時における細菌性疾病の予防と適正な治療。
6. アルテミアに代る大型餌料の培養および天然プランクトン大量採集技術の確立。

VII 文 献

1. 沖縄県水産試験場（1981）昭和 55 年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
2. 沖縄県水産試験場（1982）昭和 56 年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
3. 沖縄県水産試験場（1983）昭和 57 年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
4. 沖縄県水産試験場（1984）昭和 58 年度 研究開発促進事業、南方海域諸島種苗生産基地化基礎技術開発研究。
5. 北田哲夫、他（1983）長崎における養成シマアジの成長、長崎県水産試験場研究報告第 9 号。

（北田哲夫）長崎における養成シマアジの成長、長崎県水産試験場研究報告第 9 号によれば、長崎における養成シマアジの成長は、昭和 57 年度まで年々増加の一途を辿り、昭和 58 年度は前年度比で約 1.5 倍の成長が確認された。また、成長率は年々高まっている傾向にある。

（北田哲夫）長崎における養成シマアジの成長、長崎県水産試験場研究報告第 9 号によれば、長崎における養成シマアジの成長は、昭和 57 年度まで年々増加の一途を辿り、昭和 58 年度は前年度比で約 1.5 倍の成長が確認された。また、成長率は年々高まっている傾向にある。

（北田哲夫）長崎における養成シマアジの成長、長崎県水産試験場研究報告第 9 号によれば、長崎における養成シマアジの成長は、昭和 57 年度まで年々増加の一途を辿り、昭和 58 年度は前年度比で約 1.5 倍の成長が確認された。また、成長率は年々高まっている傾向にある。